

## 第4回 檜原市市有施設再配置検討審議会 会議録

日 時	平成 30 年 1 月 15 日（月） 13：30～17：00	
場 所	大和信用金庫八木支店 3 階第 3 会議室	
出席者	委員	赤崎会長、藤原委員、植田委員、米田委員、榎谷委員、北 委員、森本委員、岩田委員、崎山委員、前川委員、本塚委員、安村委員
	事務局	高井総務部副部長 資産経営課：黒田課長、新田課長補佐、米田課長補佐、原田主査、河野主査、里中事務員 長大：岡庭、木原、木戸口、川端、田口
欠席者	員委	北浦委員、細川委員、小川委員
資 料	<p>第 4 回 檜原市市有施設再配置検討審議会 次第</p> <p>資料 1 第 4 回 市有施設について考える市民ワークショップ結果報告</p> <p>資料 2 延床面積縮減による削減コスト試算（小分類別）</p> <p>資料 3 まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標を推進するための関連施設</p> <p>資料 4 施設分類別基本的方針（素案）【市民ワークショップの意見】</p> <p>資料 5 施設分類別基本的方針（素案）【はじめに～フォローアップ】</p> <p>第 3 回資料 6 施設分類別基本的方針（素案）</p> <p>当日配布 檜原市市有施設再配置検討審議会 委員名簿</p> <p>当日配布 施設分類別基本的方針策定の流れ</p> <p>当日配布 檜原市まち・ひと・しごと創生総合戦略</p> <p>当日配布 市民ワークショップ B グループの意見 正誤表</p> <p>当日配布 市民ワークショップ B グループの意見</p>	
1. 開会 事務局	<p><b>資料確認</b></p> <p>第 3 回の審議会において配布した資料 7「第 3 回市有施設について考える市民ワークショップの結果報告」の 46 ページの上段、B グループ、C 地区における再配置シミュレーションの削減ポイントに誤りがあったため、本日配布した資料「市民ワークショップ B グループの意見」への差し替えをお願いしたい。</p>	
委員	<p><b>開会挨拶</b></p>	
2. 議題 事務局	<p><b>議題（1）「市有施設について考える市民ワークショップ」の結果報告</b></p> <p>「市民ワークショップ結果報告」について説明</p> <p><b>【資料 1 第 4 回市有施設について考える市民ワークショップ結果報告】</b></p>	
委員	<p>このワークショップの参加者は、目的をよく理解され、報告書のとおりレベルの高い意見交換を行われていると思う。</p> <p>ワークショップの意見がそのまま施設分類別基本的方針に反映されるかどうかは別の問題であるが、事務局、担当部局も大いに参考にすべきものだ。</p> <p>ご意見はないか。</p>	
委員	<p>我々が審議していることは、ハード面として、延床面積を減らす方策と、その結果としての財政負担の縮減についてだが、施設の適正な規模・配置を考えるには、このワークショップの意見にあるように、必ずソフト面が付随してくる。ハード面とソフト面の両面があって、初めて有機的に新たな施設整備やまちづくりができるのだと感じた。そういう意味で、ソフト面の方針を必ず施設分類別基本的の方針</p>	

	<p>針の中に記載していただきたい。</p> <p>具体的には、今のお母さん方は、本当に孤立していて、親と同居していないので、子供をどうやって育てていいかも聞けない。また、近所付き合いもないため、ほとんどインターネット世界との繋がりの中で子供を育てている環境であり、非常に不安を抱えて生きている。このような状況の中、市では相談窓口を設けて、お母さん方の不安を解消しようと努力をされている。そういうソフト面の事業に、より一層力を入れると、結果として、市民の方々、特に若い世代、小さい子供をお持ちの方々が、「サービスが向上して、樫原市に安心して住める」と感じることができる。施設分類別基本の方針の中で、ソフト面について書いていないが、市から提供されているサービスや新たなサービスも併せて記載して検討いただきたい。</p> <p>また、公営住宅については、効率的に考えれば、民間の空き家に移り住んでいただいて、市がソフト面での支援をするということは分かりやすい。一方で、公営住宅という1つの固まりの中で、今後多くなる高齢者が、孤独死することがないような環境や、空き家に移り住むことによってコミュニティがバラバラにならない対応といったソフトな視点があってほしい。</p> <p>さらに、給食室では、「給食を運搬する間に料理が冷めたり、菌が繁殖することがある」とあるが、今は非常に技術的に進んでおり、20キロ運搬しても全く冷めない新しい器具もあり、菌が繁殖することはないので、少し誤解されている部分もある。</p>
委員	<p>このワークショップで出ている意見を尊重しなければならないが、そのまますぐできると思われるのは問題があるという認識を持つ必要がある。</p> <p>例えば、「小学校、幼稚園の中に放課後児童健全育成施設、こども園や児童館を入れる」とあるが、これは全部を一緒にした方が利便性があるという意見ではないかという素直な意見である。一見これでいいかと思うが、例えば、小学校の教室の1カ所を学童保育として使用するだけでも、現実には、それぞれに管理区分があり、運営時間も違う。それらの整理ができて、はじめて学童保育が小学校の教室の横を使用できるようになる。さらに、小学校に児童館まで複合するとすると、学校施設ではなくなる。ワークショップの意見を尊重しながらも、実現が可能か考えなければ、有効な施設の利用ができない。</p> <p>公民館などの地域の公共施設は、市民が使う共用の施設としてできているが、学校は義務教育であり、法律でも定められ、教育の場としての役割がある。それらに見合った形で施設を整備しているので、学校施設自体を変えていこうとする場合には、管理区分が相互にうまくできるか議論していかないといけない。</p>
委員	<p>2ページの地区公民館では、「稼働率が低い地区公民館は現状の規模は必要ないので、他の施設に複合してもよいのではないか」という意見があるが、一方で「必要である」という意見もいただいている。実際、延床面積20%削減にあたり、基本的には稼働率が基準になると思うが、これからの時代、高齢者が増えていく中、公民館は地域コミュニティの拠点であるので、単に稼働率で統合・廃止とかいうのは乱暴だと思う。</p>
委員	<p>小学校と放課後児童健全育成施設や児童館等の複合化は、管理の面では大変だと認識している。</p> <p>例えば、低学年が3時に学校が終わって、3時半から学童保育を活用した場合、高学年は4時まで授業をしているので、授業と学童保育が同時進行することになり、本当にうまく区分できるか疑問に思う。また、学校の空き教室が数字として挙がっているが、2階、3階に空き教室があると、活用しにくい場合があるので、どこに空き教室があるかも考慮していくべき点だと思う。</p>

委員	<p>白樫地区は、市内 6 中学校区の中でも少子化が非常に進んでおり、唯一、公立幼稚園が、北と南で統合された前例がある。</p> <p>なので、ワークショップの意見として、複合や統合といった意見が多いのはもったいなことだと思うが、管理面は異なる部局で行っているの、実際にはうまくいかない部分もあると思う。</p> <p>なお、ワークショップの参加者の意見に対する回答はするのか。</p>
事務局	<p>ワークショップでいただいた意見については、施設分類別基本の方針の中にある「市民ワークショップの意見」に記載していくことを考えている。回答は 3 月に予定している第 6 回ワークショップで、施設分類別基本の方針の概要、ワークショップの意見と、その意見の中から配慮すべき事項をまとめた形で、ワークショップの参加者に説明することを考えている。</p>
委員	<p>ワークショップの内容はすごく納得できる内容であるが、実現に向けては多くの難しい問題があるということ、一般市民の方はあまり理解していないと思うので、その辺をきっちりと解説、説明する必要がある。</p>
委員	<p>同じ意見だ。ワークショップを見て、「一生懸命意見を出しているけど市の施策に反映されるのか」「市はどのように考えているのか」という意見も聞いたので、理由を明確にして回答してほしい。</p>
委員	<p>検討すべき議題となる意見が出ているので、いろいろ考えていきたい。</p>
委員	<p>市民の率直な意見だと理解している。</p>
委員	<p>地区公民館は、各地域で温度差はあるが、活動の拠点として重要だと考えている。また、小中学校の複合については、避難所の分布の考慮や地域住民の意見等を聞いて決定することが非常に大事なことである。</p>
委員	<p>教育というのは国の基幹なので、単なる効率だけを追求するのではなく、学校については、他の施設と分けて考えたほうがいい。</p>
委員	<p>事務局は、各委員の意見も留意して対応すること。          続いて、前回の審議会での検討事項について、事務局より説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p><b>議題（２）前回の審議会での検討事項について</b>          延床面積縮減による削減コスト試算について説明          まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標を推進するための関連施設について説明  <b>【資料 2 延床面積縮減による削減コスト試算（小分類別）】</b>  <b>【資料 3 まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標を推進するための関連施設】</b></p>
委員	<p>資料 2「延床面積縮減による削減コスト試算（小分類別）」では、やわらぎの郷の目標削減率が 100%になっているが、これはワークショップの 4 グループ全てにおいて、民営化という意見であったため、民営化という結論になったと解釈しているか。</p>
事務局	<p>民営化や廃止を検討していく上で、やわらぎの郷の目標削減率を 100%と考えている。</p>

委員	<p>資料5「施設分類別基本の方針（素案）【はじめに～フォローアップ】」の4ページに書いている公共施設の目標延床面積 42 万㎡が、資料2の建物延床面積 28 万 4,000 ㎡と差があるのはなぜか。</p> <p>また、資料5の数値目標の設定に書かれている内容と、資料2とで、表現や内容に違いがある。</p> <p>その上での話だが、資料2の維持管理費※2の解説として、「維持管理費は、直接的な建物維持管理に係る経費、施設運営に係る経費（警備業務や指定管理業務など）、人件費（施設維持管理を行う職員）を合算した値です」と書いてある。</p> <p>これは全施設の大規模な改修とか建替えではない設備の更新費用も含まれて38年間の数字を出し、年間平均値として使うのであればロジックとして分かる。この維持管理費※2の定義があるにもかかわらず、年間平均維持管理費※3では、「年間平均維持管理費は、26年度・27年度実績の平均値です」と定義し、実際の試算では、年間平均維持管理費※3の26年度・27年度の実績の平均値を使用している。26年度・27年度に大きな設備の更新がないと、数字的には非常に小さなロジックになってしまう。</p> <p>それから、整合性という面では、資料5の4ページにある数値目標の設定では、「管理運営費の削減効果（過去3年間の公共施設に対する維持管理費の平均額）」というように3年間と書いてある。しかし、資料2では26年度・27年度の2年間と書いており、これも不自然だ。</p> <p>資料5の管理運営費の削減効果が過去3年間の維持管理費の年間平均値だとするのであれば、維持管理費※2を使う必要はない。</p> <p>また、資料2の維持管理費の年間平均費用削減合計※4は、運営ではなく管理になるはずだが、年間平均維持運営費用となっている。これは資料5の4ページに書いてある「縮減目標20%の平均値である10%」で管理費用に目標削減率20%を2分の1にしたと説明が書いてある。要するに、建物がそのまま存続したときには、必要な維持管理費があり、建物が削減されたことによって維持管理費は減る。という関係がここでは示されずに、単純に20%の2分の1、10%をずっと減らしているが実際は、削減面積が減ったことによる維持管理費の削減がある。</p>
事務局	<p>まず、資料2の延床面積が28万4,000㎡と書いているのは、削減を考えている対象の分類のみを記載しているため、この数値になっている。</p> <p>施設全体としては、約42万㎡になるが、削減予定の分類だけを掲載しているので、面積が少なく表記されている。</p>
委員	<p>削減対象にならない施設があるということか。</p> <p>どこに削減対象にならない施設は示されているのか。</p>
事務局	<p>施設分類別基本の方針の中で、縮減をする分類と、必要なので縮減できない分類がある。</p> <p>その中で、資料2では、施設分類別基本の方針の中で縮減目標を立てている分類を抜粋している。</p> <p>また、維持管理費としては、維持管理費※2で書いている各施設にかかっている2年間分の経費を分類ごとに平均している形になっている。単年度ではなく、過去2年間分の平均値を採用した。</p>
委員	<p>年数の話をしているのではない。</p> <p>資料2の維持管理費※2は、全施設の大規模な改修とか建替えではない設備の更新費用も含んだ今後38年間の数字を合算し、年間平均値を算出していると読み取れる。それに対し、年間平均維持管理費※3は、26年度・27年度の実績の平均値を使用している。資料5の管理運営費の削減効果が過去3年間の維持管理費の年間平均値だとするのであれば、維持管理費※2を使うことで誤解を招くこととなる。</p>

事務局	維持管理費※2 を記載していることで、今後 38 年間の試算をしていると誤解を招く表現をしているので、維持管理費※2 を削除する。
委員	元々、40 年間で公共施設の延床面積を 20%減らして、年間 7.3 億円を減額しなければ、健全な市政運営ができないと総合管理計画で定めており、それを具体的にどのようにするのかを議論するのが、本審議会の主題である。 各分類の目標削減率は、最初に延床面積を 20%削減すると決めた総合管理計画の中で、既に想定されていた数値と考えていいのか。
事務局	当初から想定していたわけではない。
委員	それはおかしい。積み上げてもないのに、なぜ年間 7.3 億円、延床面積を 20%減らすという数字が出てくるのか。 各施設の利用状況を見て、分類ごとの目標削減率を積み上げれば全体で 20%の削減目標となり、その目標はある程度見通しはあるものの、実際に進めていくと削減できない施設も出てくると思う。本審議会は、そのような場合でも目標削減率を達成するために、今後 40 年間でどう進めていくかということ諮問されているはずだ。 そのときに気になるのが、40 年先のための具体的な案を筋道立てて全部つくっていきえるのかだ。40 年の長期計画として考えるのはいいが、目標を達成するために、一步一步進めていかなければならないし、40 年間にさまざまな社会情勢の変化もあるかもしれないから、計画を修正しながら動いていかなければならない。 だから、これから審議する施設分類別基本の方針は、例えば、今から 10 年先、今から取りかかる部分を何にするかという議論をするのがこの審議会だと認識している。
委員	40 年の間にはとても大きな社会の変化、経済の変化がある。だから、そういうことも前提に、40 年間の計画を決めないといけない。 40 年間の計画を立てることは決まっているが、我々が諮問を受けて答申するときの位置づけの問題かもしれない。 例えば、40 年間でこの施設は減らさないという市の方針があれば、市民が分かるように、施設分類別基本の方針の一番初めに説明しないとけない。 また、施設分類別基本の方針を、なぜ 40 年間の計画にしたのかを記載しないとけない。
事務局	総合管理計画では、40 年先を見た中で延床面積を 20%減らす計画をしている。この 20%というのは、各施設を減らす、減らさないという議論を積み上げた数字ではない。 財政的な面から見た中で、更新費用の不足分を延床面積の 20%削減によって補えるということで算出された数値となっている。 その中で、資料 5「施設分類別基本の方針（素案）【はじめに～フォローアップ】」の後段部分に、今後 40 年の見直しの方法を記載している。具体的には、延床面積 20%の削減を達成するために、分類ごとにこのような方針を立てて、10 年ごとに見直ししながら達成状況を見ていこうと考えている。 施設分類別基本の方針の中では、必要な施設は残し、現状のデータから、減らすことができると思われる施設は減らすという方針を考えている。
委員	40 年間のうち、第 1 期の 10 年間の見直しとして、例えば、どの学校とどの学校を統合させる計画を立て、廃止する施設にどのような公益的施設を入れたらいいか、などを書いてはどうか。

	<p>そして、10年経った後に、世の中の変化を見ながら、その目標をさらに達成させないといけないとなれば、変化に見合った第2期の計画を具体的に進めていく。このように、実践のイメージを認識していないと、40年の長期計画だといっても、計画どおりに動いていかない。</p>
委員	<p>資料5の11ページ、フォローアップに10年ごとと書いている。10年というのは、10年目で見直すのではなく、それより前に見直して、実際の報告は10年目にするのがよくあることだが、ここでは、10年ごとに進捗管理をすると記載している。</p>
委員	<p>これから、資料6「施設分類別基本の方針（素案）」を議論するが、議論する前に、資料2「延床面積縮減による削減コスト試算（小分類別）」を先に提案されたので、既に削減等の方針が決まっているのではないかと思う。これでは審議会としては、資料2の提案でいいかどうかを言うだけになってしまう。 本来は資料6の議論をし、その結果として、資料2のような小分類別に面積の目標削減率が出て、年間7.3億円が削減できるという形になれば理解できるが、最初に一方的に、削減対象面積は28万㎡だ、目標削減率はこれだけだとなると、議論が分散するのではないか。</p>
委員	<p>本審議会でも目標削減率を審議するが、事務局の案として考えた目標削減率で試算した結果を、資料2「延床面積縮減による削減コスト試算（小分類別）」として提出している。 休憩後に資料6「施設分類別基本の方針（素案）」の審議をする。</p> <p>（休憩）</p>
委員	<p>それでは、「施設分類別基本の方針（素案）」の審議に移る。 前回の審議会でも審議していない分類が小分類で22分類、大分類で8分類ある。それでは事務局、説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p><b>議題（3）公共施設等総合管理計画の実現に向けた「施設分類別基本の方針（素案）」について</b> 【資料6 施設分類別基本の方針（素案）】</p> <p>第3回の審議会では、小学校や中学校など、縮減目標値を想定している13の小分類についてご審議いただいた。 本日は残る22の小分類についてご審議いただきたい。</p> <p>21ページ、給食室を説明する。 保有総量の最適化については、配食時間や運搬距離などから、全ての施設を集約することは困難だが、センター方式の拡充も含め適正規模の検討を図る。学校内の給食については、学校の適正配置と連携しながら検討を進めている。 長寿命化の推進については、点検等による予防保全により、施設の長寿命化を図る。白樫共同調理場については、長寿命化・耐震化し、その際にはさらなる集約化の是非も検討する。 経済性の向上については、集約化や民間委託等を検討し、効率的な運営に努めるとしている。</p> <p>24ページ、子ども総合支援センターを説明する。 保有総量の最適化については、設置の目的・必要性も高いことから、子ども総合支援センターの機能は維持する。</p>

	<p>長寿命化の推進については、点検等による予防保全により、施設の長寿命化を図っていく。          経済性の向上については、点検等による予防保全により長寿命化を図り、更新コストの縮減に努めていく。</p>
委員	<p>続いて、市民文化・社会教育施設の説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>38 ページ、地区公民館を説明する。          保有総量の最適化については、地域コミュニティや地域のまちづくりに必要な施設であり、今後もその機能は維持していく。しかし、貸室の稼働率が約 20%以下となっている施設もあることから、新たな活用方法の検討などを行う。また、将来人口の減少も予想されているので、施設の利用状況や今後の人口推移を定期的に検証し、効率的でない施設は他機能との複合化等により、利用状況の改善、施設規模の縮減を検討していく。          長寿命化の推進については、計画的に施設の長寿命化を進め、あわせてバリアフリー化やトイレの多機能化などを進めていく。          経済性の向上については、点検等による予防保全により長寿命化を図り、更新コストの縮減に努めていく。</p> <p>46 ページ、集会施設を説明する。          保有総量の最適化については、公営住宅の附帯施設として整備された集会施設については、公営住宅の整備計画にあわせて更新するが、その際には必要面積や集約の検討を行う。その他の集会施設については、一般的に集会施設は地元により管理運営されているので、統合や地元移管、廃止等も含めて地域と共に協議を進めていく。          長寿命化の推進については、点検等による予防保全により、長寿命化を図る。その他の集会施設については、地域とともに適正規模の検討を進め、必要な施設については長寿命化を進める。          経済性の向上については、地元移管も含め検討を進め、更新費用の縮減に努めていく。</p> <p>53 ページ、文化ホールを説明する。          保有総量の最適化については、近隣の新駅構想もあり、利便性の改善が見込まれることから、文化ホールの機能は維持する。          ただし、市役所本庁舎の建替えに伴い、万葉ホール内にある教育委員会の事務所が本庁舎へ集約する予定をしているので、本庁舎集約後は、中央公民館等との周辺施設の活用方法や機能分担の整理を行う。          長寿命化の推進については、点検等による予防保全により、施設の長寿命化を図る。          経済性の向上については、指定管理者制度の導入を検討する。</p> <p>56 ページ、図書館を説明する。          保有総量の最適化については、新駅構想があり、利便性の改善が見込まれることから、図書館の機能は維持する。ただし、利用者数が減少しているため、新たなサービスの提供、例えば公民館や小中学校などの図書館と連携したサービスなどを検討する。          長寿命化の推進については、点検等による予防保全により、施設の長寿命化を図る。          経済性の向上については、指定管理者制度や民間委託等の導入等を検討する。</p> <p>60 ページ、博物館等を説明する。</p>

	<p>保有総量の最適化については、教育・学術・文化の発展、管理運営経費等の多方面から、施設の必要性を検討する必要がある。特に、こども科学館については、展示施設のリニューアルが必要であることから、廃止も含めた必要性の検討を進める。その他の博物館についても、継続的に利用状況等を分析し、必要に応じ、施設の方向性を検討する。</p> <p>長寿命化の推進については、点検等による予防保全により、施設の長寿命化を図る。</p> <p>経済性の向上については、指定管理者制度や民間委託等を検討するとともに、利用料金や運営時間等も含めた利用率向上の検討を行う。</p> <p>65 ページ、文化財施設を説明する。</p> <p>保有総量の最適化については、文化財は後世に引き継ぐ文化資産のため、保有総量の検討は行わない。</p> <p>長寿命化の推進については、点検等による予防保全により、施設の長寿命化を図る。</p> <p>経済性の向上については、貸室を行っている施設については、使用料や運営時間等を含めた稼働率の向上の検討を進める。また、各施設、個別ではなく、一体的な観点から、入館者数の向上に向けた取り組みを検討する。</p>
委員	<p>「今後、検討する」としか書いていないので、結局何もしない印象を受ける。検討するというのは誰が検討するのか、どのように検討するのかが示されていない。このまま方針として策定された時、一体誰がこの後のケアするのかということに非常に感じる。</p> <p>また、長寿命化をすることは、お金がかからなくなるということではなく、建物が老朽化すれば、メンテナンスが必要となるため、今よりもっとお金がかかることになる。</p> <p>経済性の向上でも、ほとんどのケースが、民営化や指定管理者制度を「検討します」と書いてあるが、「検討します」ではなく、「民営化あるいは指定管理者制度等を導入し」と具体的に書けないのか。</p> <p>例えば 56 ページ、図書館の経済性の向上では、「歳出合計額に占める人件費の割合が約 55%と他の施設分類に比べて高いことから、指定管理者制度や民間委託等の導入を検討し、運営ノウハウの向上、効率的な運営を図ります」と書いている。「運営ノウハウの向上、効率的な運営を図ります」と言うのであれば、「指定管理者制度や民間委託等の導入を検討し」ではなく、「指定管理者制度や民間委託を導入し」である。仮に「指定管理者制度や民間委託等の導入を検討し」となれば、誰が検討するのかという話になる。</p> <p>それから、「施設の定期的な点検等を適切に実施することで、予防保全による施設の長寿命化を図り、更新コストの平準化・縮減に努めます」とあるが、今まで市として取り組んでいなかった予防保全を行うために、業務を外部に委託したり、職員が自ら点検をすることになるので、今までかかっていなかった費用が増え、更新コストの平準化・縮減にはならない。</p> <p>大規模な建替えや改修の費用を縮減したいがために、予防保全による長寿命化という話がでてくるが、長寿命化＝コスト縮減になることは、科学的にいても決してない。この書きぶりをご留意いただきたい。</p>
委員	<p>経済性の向上では、効率的な運営をし、コスト削減の方策を決めようとしている。各分類にコスト削減を図る必要があるのか無いのかを明確に書かないと何の効果もない。</p>
委員	<p>要は、「指定管理者制度や民間委託等の導入を検討し」を「指定管理者制度や民間委託等の導入し」と具体的に書けないのか。</p>



事務局	<p>今後、基本の方針に基づき施設個別の計画を立てていくことになる中、「指定管理者制度や民間委託の導入を検討し」の記載について、「導入する」と限定的に記載できればいいが、そこまで各所管課と調整できていない部分がある。現状は、指定管理者制度や民間委託などの方法も整理しながら、個別計画で考えていこうとする方針になっている。</p>
委員	<p>それは、総論賛成、各論反対である。 各施設の個別計画は各所管課にお願いすると言った瞬間に、この施設分類別基本の方針は何の意味も持たないことになる。</p>
委員	<p>38 ページ、地区公民館の件である。保有総量の最適化で、各地区公民館は「地域の核」として大きな役割を担っていると書いているにもかかわらず、貸室の稼働率が 20%を下回る施設については、他機能との複合化、施設規模の縮減を検討と書いている。地区公民館は「地域の核」で廃止できないのであれば、利用の改善・促進を進めるなどのソフト面の取り組みを書くべきである。</p>
委員	<p>例えば、橿原市の図書館システムについては、市民の満足度は相当高いのか。また、万葉ホールが何のためのホールかよくわからない。多目的なのか、それとも、コンサートや演劇もできるホールなのか。どこに重点を置いているのか目的がはっきりしないホールは、誰も使わない。そのようなことを改善することは何も書かず、延床面積だけの記載となっている。 まず図書館はどうなのか。図書館のシステムは完全なのか。</p>
事務局	<p>ワークショップでも、他の施設と連携して貸し借りができるようにしてほしいなどの意見を多くいただいているので、完全とは言いがたい状態であると思う。</p>
委員	<p>図書館だが、ほとんどの方が田原本町などの他市町村の図書館を利用している。ワークショップでも意見が出ていたが、万葉ホールの駐車場は増えたが、交通の便が悪く、それでも入りづらいという話をよく聞く。 それと、ロマンピアホールについては、バックヤードが狭く、大道具なども置けないため、劇やオーケストラができないので、すごく中途半端なホールだ。</p>
委員	<p>このような認識がある中、ソフト面の取り組みに全く触れずに、削減すれば、余計に誰も使わなくなると思う。</p>
事務局	<p>図書館だが、ワークショップでも確かに利便性が悪いので、コミュニティバスを走らせるなどで利便性を拡充してほしいと意見をいただいている。 図書館については、今、医大周辺のまちづくりのなかで新駅が近くにできるという構想もあり、その新駅の進捗を見ながら、バス等の公共交通が必要なのかどうかも含めて、利便性を上げていく必要があると考えている。 個別施設に対して、それぞれ具体的な取組内容を書いていきたいという思いはあるが、施設分類別基本の方針の中で、全ての施設に対して具体的な方針を立てていくのは難しいと考えている。</p>
委員	<p>審議会では、ハード面として延床面積をこれぐらい減らすのが適切であるという意見を出さないといけないが、どのような施設をどのように運用するなどのソフト面の話を抜きにしても仕方がない。 例えば、かしはら万葉ホールや歴史に憩う橿原市博物館であれば、このように改善しながら使い続けていくなどを書く必要がある。また、博物館については、「日本国はじまりの地」と言っている割に、本市は博物館に力を注いでいない。来て</p>

事務局	<p>もらうためには、このような博物館にしたいということを考えながら、施設分類別基本の方針に書いた方がいいと思う。</p> <p>博物館や文化ホールも含めて、市民側からみた意見をワークショップで集めている。その意見に対して、どういう課題があるのか、どういうことを市民は感じているのか。また、そのことを把握しながら、施設管理者側でもどういう運営をしていて、どういう課題があるのかを、各所管課に確認して、施設分類別基本の方針にもう少し具体的に書いていきたいと考えている。</p> <p>本日時点では、そこまでできていないため、どの分類も同じような書きぶりとなっているので、もう一度整理し直して、案として書き込んでいきたいと考えている。</p>
委員	<p>この審議会での議論は、いい図書館をつくろうとか、いい公民館をつくろうということではなくて、総合管理計画の内容をいかに、実現性を持たせるかという審議をしている。だから、このように維持するとか、このような方向を考えて統合を促進するとか根幹の考え方から方向性を考えなければならないので、よりいい図書館とは何か、みたいな議論をする場ではない。</p>
委員	<p>それはそうだと思うが、具体的な取り組みを何も書いていないのがとても気になる。この方針では現状のまま、維持するということになってしまう。</p>
委員	<p>改善が必要な施設については、具体的な改善内容を追記した上で、維持するという書き方でいいのではないかと。</p>
委員	<p>それを書くべきだ。</p> <p>博物館にしても、文化ホールにしても、図書館にしても、このような機能を維持するということは書かないといけないのではないかと。</p>
委員	<p>この審議会の役割として、今後の施設のあり方を検討していくこと、それから、単に延床面積を減らす議論だけでなく、財政的な負担を縮減していかないと、檜原市の経営ができなくなることの両サイドから検討している。そのような観点からすると、総論賛成、各論反対という構図を変えていくことが、この審議会できれいいと思う。</p> <p>ただ、そこまで書き切れない部分があるとすれば、この施設分類別基本の方針が正式なものになったときに、「指定管理者制度や民間委託の導入を検討し」を実際に検討していただくため、例えば「1年以内に検討する」や「5年以内に検討する」など、少なくとも、誰がいつの時点でやるかを書かない限り、総論賛成、各論反対のままになってしまう。</p> <p>だから、今、経済性の向上をしようとしているのだから、運営ノウハウの向上、効率的な運用を図るために、指定管理者制度や民間委託の導入を1年以内に各担当部局がまず検討するというをここで明記しておけば、ボールを投げることになる。決して指定管理者制度や民間委託の導入をしなければならないというものではないが、導入の可否を検証する必要があるため、そこまで明記する必要がある。</p> <p>もう1点は、中央公民館の話をしているときに、体育館の話がなかった。体育館と一体の施設ではないのか。例えば、アリーナ、サブアリーナなど体育館施設の機能を拡大することになれば、中央公民館が持っている面積を活用することも考えられる。</p>
委員	<p>次に、その他施設の説明をお願いしたい。</p>

事務局	<p>80ページ、斎場・墓園を説明する。  保有総量の最適化については、檀原市営斎場と香久山墓園は、公衆衛生の向上、公共の福祉の観点から機能を維持する。飛騨町墓地管理棟、大久保町共同墓地休憩所は、地元移管の検討も進める。  長寿命化の推進については、檀原市営斎場と香久山墓園については、計画的に長寿命化を進める。飛騨町墓地管理棟、大久保町共同墓地休憩所については、点検等による予防保全により、施設の長寿命化を図る。  経済性の向上については、飛騨町墓地管理棟、大久保町共同墓地休憩所については、今後も地域運営による運営経費の縮減に努める。</p> <p>83ページ、その他施設の説明をする。  保有総量の最適化については、市民相談広場等は、市民の相談や活動の場を提供しているため、その機能は維持する。旧白檀児童センターは、他施設との統合や複合化等を検討し、将来的には廃止も検討する。旧リムジンバス休憩所は、廃止に向けた検討を進める。昆虫館石垣島圃場は、昆虫館の方向性とあわせて検討する。  長寿命化の推進については、点検等による予防保全により、施設の長寿命化を図る。  経済性の向上については、点検等による予防保全により長寿命化を図り、更新コストの縮減に努める。</p>
委員	<p>すべての分類において、「検討します」となっているが、80ページ、斎場・墓園の保有総量の最適化では、「地元移管の検討も進める」と書いてあるが、この表現でよいのか。</p>
委員	<p>現状のままでいいとの認識でないのであれば、「検討」ではなく、1年以内に必ず検討するなどにするべきだ。</p>
委員	<p>前回検討した縮減目標では、例えば、中央公民館では「50%程度の縮減を検討する」、小学校では「30%程度の縮減を図る」という表現になっている。その他施設については、資料2「延床面積縮減による削減コスト試算（小分類別）」では、飛騨町墓地管理棟や大久保共同墓地休憩所は100%縮減となっており、地元に移管するのであれば、保有総量の最適化に、「今後、地域に移管する」など、明記したほうがいいのではないかと。  そうすることで、総論賛成、各論反対に陥るのを防ぐことになる。</p>
委員	<p>最後の文章の締め方とか不足分を入れたらどうかという提案である。  それでは、環境施設の説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>87ページ、環境施設を説明する。  保有総量の最適化については、一般廃棄物等の処理は市町村の責務であるため、今後も機能を維持する。今後はごみ排出量等の推移を精査しながら、効率的な設備改修等により、設備更新費用の縮減等を図る。浄化センターについては、公共下水道普及率の増加に伴い、し尿等の処理量が減少するため、更新時にあわせて効率的な稼働を検討する。  長寿命化の推進については、点検等による予防保全により、施設の長寿命化を図る。  経済性の向上については、浄化センターは、処理水の公共下水道への放流等により、運転経費の縮減を図っているが、今後は長期包括委託等も検討する。</p>

委員	環境施設は、市民のための衛生面と、地球環境も視野に入れた環境都市づくりに欠くことができない施設であるので、廃止できない施設である。
委員	87ページの経済性の向上に「長期包括委託」という言葉が使われている。「長期包括委託」というのは、何を包括する業務か。
事務局	クリーンセンターかしはらと、リサイクル館かしはらについては、既に長期包括委託をしており、ごみ等の受付から施設の管理、補修、オーバーホール等、全て管理している。浄化センターについては、オーバーホール、曝気槽等の管理、補修を長期的に委託を検討するという意味で、「長期包括委託」という言葉を使っている。
委員	浄化センターは、現在、直営か。
事務局	浄化センターについては、直営であるが、浄化槽の機械の運転を委託している。
委員	長期包括委託にすることで、資料2「延床面積縮減による削減コスト試算（小分類別）」の目標削減率が100%になるのか。
事務局	長期包括委託にしても、市の所有なので、運営費等は下がるが、目標削減率が100%にはならない。 資料2に記載している目標削減率が100%とは、公共下水が100%つながれば浄化センターが必要なくなると考えている。汚水処理基本構想では平成47年度で普及率100%を今目指している。ただ、これは、国の補助や財政的な問題もあるので、多少遅れる可能性もある。 下水道の普及率が100%になっても、各家庭に公共下水への切り替えをしていただかないと、当然、汲み取りが発生するので、その何年かのロスはある。ただ、40年の間には要らなくなるであろうということで、浄化センターの削減率は100%で見込んでいる。
委員	続いて、子育て施設の説明をお願いしたい。
事務局	99ページ、こども園の説明をする。 保有総量の最適化については、今後は、現状の機能を維持しながら、民間施設との連携の強化により、待機児童の解消を図る。しかし、今後は人口が減少することが予測されるため、園児数や保育ニーズの検証を行い、保有総量の最適化に努める。 長寿命化の推進については、点検等による予防保全により、施設の長寿命化を図る。 経済性の向上については、今後、民間施設との連携を図り、さらなる効率運営に努める。  109ページ、放課後児童健全育成施設を説明する。 保有総量の最適化については、今後は児童の安全性や利便性を考慮し、小学校の空き教室等を利用した複合化を優先的に検討し、適正配置を行う。なお、今後の人口減少に伴い、児童の減少も予測されるため、利用者数の検証を行い、長期的には小学校等との複合化により現況の単独施設の廃止を進める。 長寿命化の推進については、単独施設や学校から離れた施設は、小学校との複合化を優先的に検討し、残る施設は、点検等による予防保全により、施設の長寿命化を図る。

	<p>経済性の向上については、点検等による予防保全により長寿命化を図り、更新コストの縮減に努める。</p> <p>112ページ、子育て施設の説明をする。</p> <p>保有総量の最適化については、現在の機能を維持するとともに、子育てに精通した相談員を配置するなど、さらなる利便性の向上や利用率の向上に向けた取り組みの検討を行う。ただし、今後の人口減少に伴い、乳幼児の減少も予測されることから、利用者数を検証しながら適正規模を検討する。</p> <p>長寿命化の推進については、点検等による予防保全により、施設の長寿命化を図る。</p> <p>経済性の向上については、一時預かりの拡充や利用時間の延長、専門相談員の配置等、利便性の向上や利用者数の増加の検討を行い、費用対効果を高める。</p>
委員	<p>この分類は「検討します」ではなく、はっきりと「廃止を進めます」とか「図ります」と表現されていて、少し他の分類と違うところである。</p>
委員	<p>子育て施設については、ワークショップのときに、観光交流センターのこども広場は、駅前であり、便利で使い勝手がいいと市民の方に評価していただいていた。</p>
委員	<p>こども広場は、駅前にあり大変利便性はいいが、駐輪場がないため自転車では行けないし、車で行っても、駐車場に車を置いて乳母車に乗りかえて行くので、リピーターはいるが、どうしても行く人が限られてしまう。</p> <p>子育て支援センターは、白樫の端にあるので、車でしか行けない。なお、バスで行くにしても、バス停から坂があり不便である。また、北部地域には子育て施設がないから、乳母車を使って行ける範囲に欲しい。子育て施設は、リピーターの方、使っている方にとってはすごく使い勝手がいいが、使っていない人にとっては高嶺の花みたいな部分もある。</p> <p>だから、幼稚園区、小学校区に、立派なものでなくていいから、空き教室などに支援員の方がいれば、子育てしているお母さんたちが安心して行けると思う。</p>
委員	<p>放課後児童健全育成施設の保有総量の最適化では、「長期的には小学校等との複合化により現況の単独施設の廃止を進めます」と書いてあり、現在、学校から離れている放課後児童健全育成施設については、移動などの安全面等も含めてよくないと感じている。</p> <p>一方で、小学校の教室利用は、管理の面で小学校の教育に障害にならないようにしっかりと検討してもらいたい。</p> <p>また、子育て支援センターは、車がなければ行きにくいという保護者がたくさんいると聞いている。</p>
委員	<p>市内15園中、5園がこども園化している。幼稚園がこども園化することは、幼稚園の園児数が非常に少なくなっていることと、保育所の待機児童がいるという問題を解消できるのでいいと思う。</p>
委員	<p>放課後児童健全育成施設、こども広場、子育て支援センターは夜の何時まで空いているか。</p>
委員	<p>放課後児童健全育成施設は場所にもよるが午後7時頃だと思う。</p>
事務局	<p>子育て支援センターは午前9時から午後5時まで、こども広場は午前9時から午後7時まで。</p>

委員	<p>以前、委員から檀原市の子育て支援に係る部分で、十分ではないという観点から、他の市町村に移住するという事例があった。</p> <p>そういう意味では、原点に立ち返るが、人口減少をそのまま受け入れるのか、それとも、どのように人口増加に切り替えていくのかという、市の基本的な施策を踏まえて、ハード面とソフト面の方針を書くべきだ。</p> <p>奈良県内でも、新しい施策が出ているので、子育て世代が市外に行かないように、あるいは、他の市町村から来てくれるような取り組みを施設分類別基本の方針に書くべきだと思う。</p>
委員	<p>続いて、行政施設の説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>116ページ、庁舎等を説明する。</p> <p>保有総量の最適化については、本庁舎は現在地での建替えを進めている。本庁舎の建替えにあわせて、かしはら万葉ホールに配置されている教育委員会事務局などを集約し、利便性の向上、事務の効率化を図る。また、八木駅南分庁舎への集約により、保健センターでも空きスペースが発生するので、駅前の立地条件などを考慮し、新たなサービスの提供等、利活用を検討する。本庁舎へ集約されることによって空きが発生する万葉ホールについては、近接する中央公民館を含め、総合的に利活用の方法を検討する。なお、本庁舎の建替えに際しては、今後の人口減少等に合わせ、間取りや活用目的を容易に変更できるフレキシブルプランを検討する。</p> <p>長寿命化の推進については、本庁舎は建替えを進める。</p> <p>経済性の向上については、管理運営業務の一括発注や電力入札等、今後も歳出額の縮減を図る。</p> <p>なお、本庁舎については、耐震性能がないことに加え、施設の老朽化が進んでいるため、現在の場所で建替えする計画を基本の方針策定と並行して進めているが、今後の人口減少への対応や更新費用の削減など、さまざまな課題がある中、本庁舎の建替えに際しても、施設の規模や複合する機能などを検討する必要があると考えている。本庁舎の建替えに関してもご意見等があれば、あわせてご意見をいただければと思う。</p> <p>120ページ、消防施設を説明する。</p> <p>保有総量の最適化については、市民の安全・安心を守るために必要な施設であることから、機能は維持する。</p> <p>ただし、消防車庫の更新の際には、近隣施設との複合化を検討する。</p> <p>長寿命化の推進については、老朽化が進んでいる施設や耐震性能を満たしていない施設もあることから、計画的に長寿命化を進めていく。</p> <p>経済性の向上については、更新の際に、近隣施設との複合化を検討し、効率的な更新に努めるとしている。</p> <p>123ページ、倉庫の説明をする。</p> <p>保有総量の最適化については、運動公園備蓄倉庫は災害時の備蓄物資を保管し、埋蔵文化財出土遺物倉庫は埋蔵文化財の出土遺物を保管、それから庁用バス車庫は市の庁用バス1台を保管しており、それぞれの必要性が高いことから、機能は維持する。飛騨町農業共同作業所については、地元への移管を検討する。</p> <p>長寿命化の推進については、運動公園備蓄倉庫と埋蔵文化財出土遺物倉庫は施設の長寿命化を予防保全により図る。庁用バス車庫については、長寿命化の必要性を検討していく。</p> <p>経済性の向上については、点検等による予防保全により長寿命化を図り、更新コストの縮減に努める。</p>

委員	ここでも、「検討します」とあるが、それが適切なのかも含めてご意見をいただきたい。
委員	今後10年間で、確実に実施するものは「～します」。10年目以降に実施するために検討する項目については「～を検討します」というような整理をした方がよいのでは。
委員	今のご意見は全般的な内容だ。 倉庫については、大体これぐらいだろうと思うが、飛騨町農業共同作業所こそ、「移管します」と書いてはいけないのか。
事務局	相手がいる中で、移管できるかできないかをまず調整しないといけないので「検討します」という書きぶりになっている。
委員	経済性の向上だが、サウンディングという考え方が全国に広がっている。サウンディングとは、今施設がこういう状況であるが、民間企業として、この施設をどのように活用できるかを聞き取りすることだ。一番初めは、学校の施設が除却された跡地活用から始まり、次に、除却する予定の学校施設をどう民間で活用できるか。さらに、地方自治体が持っている全ての施設に関して、行政側で十分に使い切れない場合は、民間として、この施設をどのように活用できるかということを問いかける。 そうすると、民間から、この施設を使ってこういうことをやりたいというアイデアが出てくる。そのアイデアを聞いて、行政側としては、この施設のこの部分は、全て民間に任せて、そこにある機能は、他の公共的な施設に回す。民間に任せることは、明らかに市の経営にとってプラスになる。 なので、指定管理者制度や民間委託という話があるが、サウンディングを活用して、その施設の有効利用を進めていくことも検討されていいと思う。
委員	「～を図る」とは、やってみることを考える程度で、「～を進める」とは、本当に実施するという意味なのできちんと区分すること。
委員	本庁舎については、現在、建替えを進めていると聞いている。
事務局	本庁舎は、耐震性能が不足しており、老朽化も進んでいる中で、現在の庁舎の場所で建替える計画を進めている。 今回、この方針で庁舎について審査していただいているが、並行して本庁舎の建替え計画が進んでいる中で、庁舎に対する考えや機能・規模などの意見があれば出していただきたい。
委員	1つは明るい市役所にしてほしい。私が見に行かせてもらった市役所では、建物に入ったら、どこがどの課であるかすぐ分かり、課名も難しい言葉は並べず、分かりやすい名称をつけていた。例えば、住民票をとる課とか、税金について相談をする課とかというような名称にしてほしい。 もう1つは、壁がなく、カウンターも低くしていただきたい。
委員	駐車場をたくさん確保してほしい。
委員	たらい回しにならないようにしてほしい。

委員	<p>本庁舎の建替えについては、この場だけでなく、いろいろなところで言う機会があるので、今後も貴重な意見として発言をしてください。      続いて、保健・福祉施設、観光施設の説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>133ページ、障がい者福祉施設を説明する。      保有総量の最適化については、民間施設や民間活力の活用により、廃止も含めた必要性の検討を進める。      長寿命化の推進については、点検等による予防保全により、施設の長寿命化を図る。      経済性の向上については、民間施設等の導入を検討し、効率的な運営を図る。</p> <p>136ページ、レクリエーション施設を説明する。      保有総量の最適化については、やわらぎの郷は、利用者数も増加していることから、当面機能は維持するが、今後の人口減少や民間施設の普及も考えられるので、大規模改修の際には、民間移譲や廃止を検討する。      新沢千塚古墳群公園拠点施設シルクの杜については、今後の利用者数の推移を検証していく。      長寿命化の推進については、点検等による予防保全により、施設の長寿命化を図る。      経済性の向上については、シルクの杜については、直営で運営されているので、指定管理者制度の導入等を検討する。</p> <p>40ページ、保健施設を説明する。      保有総量の最適化については、市民の健康増進・福祉の向上に必要なので、機能は維持する。      長寿命化の推進については、計画的に長寿命化を実施する。      経済性の向上については、医療機関と連携・医療のすみ分けを行うとともに、近隣市町村との広域化等を検討する。</p> <p>146ページ、観光案内所を説明する。      保有総量の最適化については、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標、を達成するために必要な施設であるため、機能を維持する。しかし、八木駅南市有地活用事業においても広域観光の拠点として観光案内所が整備されることから、役割分担・連携を強め、さらなるにぎわいの創出につながるサービスの提供を検討する。      長寿命化の推進については、点検等による予防保全により、施設の長寿命化を図る。      下の経済性の向上については、今後さらなる利用率向上に向けた取り組みを検討する。</p> <p>149ページ、観光トイレを説明する。      保有総量の最適化については、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標、を達成するために必要な施設であるため、機能を維持する。しかし、第1トイレ及び第2トイレについては、互いに近接しており、榎原神宮内のトイレとも近接しているため、更新の際には必要性を精査する。      長寿命化の推進については、点検等による予防保全により、施設の長寿命化を図る。      経済性の向上については、点検等による予防保全により長寿命化を図り、更新コストの縮減に努めるとしている。</p>
委員	<p>観光トイレはとても大事で、トイレがダメなところには観光客は来ない。</p>



	全部洋式になっているのか。
事務局	全て洋式にはなっていないが、和式、洋式が混在しているような形となっている。
委員	<p>長寿命化の推進で「予防保全による施設の長寿命化」と記載されているが、具体的に何を意味するかを、市としては検討済みだと思う。</p> <p>今までの市の公共施設では、予防保全の考え方ではなく、予算の限界があるため、ひたすら劣化していくのに任せるような形でしかなかった。それを予防保全にしていくことは、例えば、職員が今まで年間1回だけしていた点検を6回にするとか、外部に点検を委託して、予防保全ベースの設備の管理、更新をしていくことになるので、予算的には従来よりもかかる。</p> <p>なので、施設ごとに予防保全ベースの費用を数値的に表したときに、トータル年間で、予防保全ベースになると、どれだけの費用が市としてかかるかを把握されていたほうがいいのか。</p> <p>長寿命化とは、大きな更新費用をかけないという意味合いはあるが、費用的には、古い建物をずっと使い続けるので、さまざまな劣化が起きてくる。劣化していく古い建物を保全していくという費用がかかってくるのが現実なので、単年度ベースで一度試算をされるといいかと思う。</p>
委員	予防保全にした場合、どれぐらいお金がかかるかは計算しているのか。
事務局	予防保全する場合の試算は、現在行っていない。
委員	この審議会ではその数値は出さなくてもいいのか。出したほうがいいのか。
委員	<p>要するに「予防保全」という言葉が使われているので、費用を外部に出すかの話は別にしても、今までやっていないことをするので、予防保全は費用がかかるといふ現実を認識する意味で計算されるべきだと思う。</p> <p>資料2「延床面積縮減による削減コスト試算（小分類別）」の年間平均削減費用合計の約7.3億円の数字が変わってくるため、実現できなくなる可能性がある。</p>
委員	年間平均削減費用合計の約7.3億円を変えないといけなくなるということか。
委員	このままでいいが、現実には予防保全ベースの費用が出たときに、年間平均削減費用合計の約7.3億円をもう少し大きくしないといけなくなるかもしれない。だから、予防保全の持つ意味を、言葉ではなく、数値的に認識する必要があると思う。
事務局	予防保全の試算はしていない。予防保全の試算はすごく難しい問題があり、簡単に想定できるものではないと事務局は考えている。
委員	この審議会の取り扱い事項でなくても、役所の中で誰かがする必要があるのではないのか。それは、事務局の所管ではないのか。
事務局	今後、予防保全する中で、どういう費用がどれだけかかるのかは洗い出して想定しないとイケないことは理解しているが、それを本審議会に提示することは、すぐにはできないと考えている。
委員	審議会に提示してもらわなくてもいいが、少なくとも単年度ベースで費用は認識して、場合によっては予算をとるような形でしていただかないといけない。

委員	そういうことは、毎年していないのか。
事務局	<p>予防保全の考えを取り入れて、予防保全でどれだけかかるかという試算は、今までできなかった。</p> <p>大体の市町村における設備等の更新は、潰れてから直す事後保全になっている。それを今は、予算の平準化や、計画的な修繕である予防保全に切り替えていきたいと考えており、こういう記載をしている。</p>
委員	理解した。この審議会の答申書には、費用は間に合わないかもしれないが、考え方は提示していこうと事務局は考えている。
委員	最後は、施設分類別基本の方針（素案）について、事務局の説明をお願いしたい。
事務局	<p><b>議題（４）施設分類別基本の方針（素案）について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民ワークショップの意見についての説明</li> <li>・はじめに～フォローアップについての説明</li> </ul> <p>【資料4 施設分類別基本の方針（素案）【市民ワークショップの意見】】  【資料5 施設分類別基本の方針（素案）【はじめに～フォローアップ】】</p>
事務局	第3回の審議会資料6施設分類別基本の方針（素案）に記載している「市民ワークショップの意見」については、第2回までのワークショップの意見を掲載している。10月28日と11月12日に開催した第3回、第4回目のワークショップの意見も含めて追記・整理したものが、資料4になる。
委員	<p>最終報告書には、全6回のワークショップを総括して入れていくが、全部の内容を入れるわけにいかないのが、重要な内容を入れていく。</p> <p>「はじめに～フォローアップ」について、ご意見があるか。</p>
委員	資料5「施設分類別基本の方針（素案）【はじめに～フォローアップ】」の4ページでは、対象面積が42万㎡と書かれており、7ページでは、40万㎡と数字が違う。例えば、4ページの※印に「新沢千塚古墳群公園拠点施設（4,127.46㎡）」、「30年度整備予定の八木駅南市有地活用事業（約15,600㎡）」と括弧で書けば、4ページと7ページの面積の違いが分かる。
事務局	面積の違いに対する説明を4ページに入れさせていただく。
委員	<p>6ページ、「（1）公共施設の必要性の検討」について、教育施設は「サービスや機能の提供にこだわらない、最適な事業主体によるサービスの提供を検討します」に合わない。教育施設の場合は、教育環境の質の確保だと思う。</p> <p>だから、学校規模が小さくなったときには、教育環境の質が落ちるので統合する。これはサービスとか関係なく、やるべき教育の質の確保を図ることを目的として、再整備という必要性の検討を行っている。他と性質が違っていると感じがしているので、教育環境の質を落とさないように整備、縮減、効率的な活用を図るなどの内容で項目を1個増やさないと、書き切れないと感じた。</p>
委員	6ページ、「（1）公共施設の必要性の検討の考え方」で、必要性を検討した結果、例えば、このような施設が民間サービスで実施されているので、公共サービスとしては必要ないので、除却するとか、サービスを止めるとか、縮小するとかという検討の結果を示しいただきたい。

	<p>同様に、「(2) 市民ニーズに応じた適正規模の検討」については、市民ニーズは現在存在しているニーズのことであるが、もし人口が減ることを前提にするなら、そのニーズは当然減っていくので、最後に出てくる基本の方針には、この検討の結果が資料6「施設分類別基本の方針」の分類別の答えになる。</p> <p>単なる考え方ではなくて、この検討の結果、どの施設が6ページの施設分類別基本の方針の考え方に反映されているのかを示していただくことが必要だ。もし、これが全然反映されていないのであれば、この考え方は外すべきだ。</p> <p>施設そのものの建築年数が、まだ20年間であるとか、大規模改修が行われたからという理由で、その施設を維持しなくてはならないという理屈は、「市民ニーズに応じた適正規模」から離れ、施設本位になっている。</p> <p>また、維持するためにはどうするかというと、指定管理者制度や民間委託を「検討し」となっている。だから、「市民ニーズに応じた適正規模の検討」が行われ、この施設は、規模を縮小するや除却するなどの結果が資料6の方針に示されているというつながりを示さないと、この考え方が反映していないことになる。</p> <p>3番目も4番目も同じなので、単なる考え方だけでなく、資料5の施設分類別基本の方針の考え方がどのように、資料6「施設分類別基本の方針（素案）」で示されたかという具体的な事例を示していただきたい。</p>
委員	<p>以上でよろしければ、これで終了する。        次回の予定など、事務局、お願いします。</p>
3. その他	<p>その他について</p>
事務局	<p>次回、第5回審議会は平成30年2月23日（金）の午後1時半から、場所は新分庁舎4階のコンベンションルームを予定している。詳細については、改めて案内する。</p> <p>本日の会議録の署名委員は、赤崎会長と細川委員の予定だったが、臨時議会のため、細川委員が欠席されたため、前川委員にお願いします。</p> <p>また、第6回ワークショップは平成30年3月17日（土）の午後1時半からを予定しているが、場所は未定のため、改めて案内する。</p> <p>《終了》</p>